

建築家として叶えたいこと

昭和学院小学校 六年 平澤 智規

僕の夢は建築家になって、人々の孤独をなくすことだ。

建築家になろうと思ったのは、二歳の時に家を作っている大工さんに憧れたのが始まりだ。色々な長さの木を組み合わせて組み立てていく過程がとてもおもしろかった。何日かすると土台しかなかったところに、立派な木枠の家ができていくのだ。これからこの木材を柱として色々な装飾がされていく。この家はどんな感じの外観になっていくのだろうか、コンクリート調の壁にしてモダンな感じにしていくのも悪くない。そんな風に勝手に人様のお家の完成形を想像しているのだ。散歩に出れば、建設中の建物があるとしたらその光景に目が釘付けになり、一歩も動かなくなっていたそうだ。そして帰宅すると、レゴを使って見たものを再現して組み立ててみたり、独自に家を作ってみたりして遊んでいた。

今は有名な建築家の作品集や書籍、展覧会などに行っている。最近では、上海万博のイギリス館である種の聖殿を作ったトーマス・ヘザーウィックの展覧会を見に行つて、芸術的でありながら機能的な作品にとっても感動した。建築物には建てる人の思いが込められている分、力が宿っていると感じた。そして、建築物を通して、何かを提言されているように思えた。

二〇二五年には大阪万博が開催される。そこでは各国のパビリオンを見学できる。斬新な建築物を見れるのは滅多にない機会だ。

そしていずれは日本中、世界中の建築物を見てまわりたい。何百年と建っているのに飽きないもの、むしろますますその存在価値が高まる建築物。この魅力とはいったいなんなのか。その土地の気候や地形、採掘できる石や材木を使つてど

んな建築物を建築家たちが造ってきたのか。過去にさかのぼって、背景にある民族の歴史的価値観など、知らなくてはならないことがたくさんある。過去から学ぶことは多くあるとともに、今は自然環境に配慮した素材も多く開発されている。その未知なる素材をつかった建物を作ることに目を向けていかななくてはならないと思う。

僕の目指したい建築家とは何百年と経過しても風化されない建築物を造り、人と人、人と時間をつなぐことだ。周りほとんどどん変わつていく中で、いつまでも変わらない建築物。そして今存在している人間よりもはるか前からそこにあつて、まるでご神木のように周りで生活している者たちを優しく見守っている。それはきっと、心の拠り所になる安心できるような場所。なつかしくもあり、ホッとするような場所。そんな建築物を残せる建築家になりたい。

さらに、いつか宇宙に人が住むことのできる住宅を設計するなんていうまだ小さな野望をもちながら…。

平澤 智規

のライフプラン

将来なにになりたいか? 建築家

その理由: 人と人、人と時間をつなげるのは建築物だと思ったため

夢をかなえるまでのスケジュール

西暦(年)	年齢(学年)	夢をかなえるために努力すること	努力するために、なににお金がかかりそうか
2023年	12(小6)	中学受験	受験代
2024年	13(中1)	中学入学、国内の建築めぐり、イタリア旅行	入学金、旅費、授業料
2025年	14(中2)	大阪万博へ行く	授業料、旅費
2026年	15(中3)	国内の建築めぐり	授業料、旅費
2027年	16(高1)	国内の建築めぐり	授業料、旅費
2028年	17(高2)	海外短期留学	授業料、予備校代、旅費
2029年	18(高3)	大学受験、海外の大学視野に	授業料、予備校代、旅費
2030年	19(大1)	建築科にて建築勉強スタート	大学入学金
2031年	20(大2)	海外を見て回る。	授業料、旅費
2032年	21(大3)	建築事務所インターン。	授業料、運賃
2033年	22(大4)	就職活動スタート内定もらう	授業料、運賃
2034年	23	トーマス・ヘザーウィック事務所へ	渡航費、勉強代、生活費
2035年	24	いろいろな建築にたずさわる。	渡航費、生活費
2036年	25	いろいろな建築にたずさわる。	渡航費、生活費
2037年	26	一級建築士試験	勉強代、生活費
2038年	27	独立	独立費、生活費
2051年	40	宇宙での建設人	渡航費、生活費